

## 岩木川左岸 3 期地区の環境公共（西北地域県民局の巻 その 21）

つが君 おべ様、8 月 8 日（土）に西目屋村にある津軽ダムに子供たちが見学に行っていたみたいだけど、何かイベントがあったの？

おべ様 「岩木川左岸 3 期地区環境公共推進協議会」が、つがる市福原の集落の子供たち 11 人と「岩木川水をめぐる旅」を行ったんだよ。

つが君 なんのために？

おべ様 毎日のように私たちが目にしている田んぼでは、「水」を使って春の田植えから秋の稲刈りまで、農家の人たちによって、たくさんのお米が作られているよね。「水」は、お米だけでなくリンゴや野菜など、みんなが食べる安全で安心な作物を育てるために、いろいろな場所で使われているんだよ。でも、初めから「水」が流れていたわけではなく、みんなが生まれる遠い遠い昔から、多くの人たちの知恵と工夫によって、長い間「水」を上手に利用し、農地（田んぼや畑）が守られてきているんだよ。そこで、「岩木川の水をめぐる旅」では田んぼまで「水」がどのようにして来るのか？を確かめるためにダム・用水路をめぐり、その役割とみんなの生活にどんな関係があるのかを学んできたんだ。

つが君、津軽地方（岩木川の左岸）の田んぼの「水」はどこから来ているかわかるかい？

つが君 うーん、川かな、岩木川とか。

おべ様 そうだね。でも、もう少し詳しく言うと、最初は岩木川の最上流部の青森県・秋田県の県境に広がる白神山地に降った雨が少しずつ集まって岩木川に流れ込み、それらが下流の弘前市内や用水路（田んぼに水を注ぐための水路）を通して、最終的に田んぼへ届くんだよ。

つが君 でも、どうして津軽ダムを見学に行ったのかな？

おべ様 そうだね。川の水は、何もしないと流れて行ってしまうよね。田んぼに使う「水」も、必要な時に雨が少なく川に水が無いと、使えないんだよ。だから必要な時に使えるように、ダムに一時的にためておくんだよ。その他にも、ダムには、急な大雨による洪水を防止する役割や、岩木川自体の川の環境を守る役割、水道水をためておく役割、工業に必要な水をためておく役割、発電を行う役割があり、ちなみに津軽ダムでは約 8,700 世帯が使用する電力を発電できるんだよ。

つが君 うわー、ダムには田んぼに使う水をためる他にも色々な役割があるんだね。初めて知ったよ。ところでおべ様、津軽ダムは前は目屋ダムっていう名前でなかった？

おべ様 目屋ダムは昭和 35 年に完成し、現在までの 50 年もの間、岩木川を洪水から守り、田んぼに使う「水」をためてきたんだけど、ダムの規模が小さく、相次ぐ洪水被害や渇水被害へ対応するために目屋ダムより大きな津軽ダムを作っているんだよ。

つが君 そうなんだ～。津軽ダムの他にはどこか見学に行ったの？



津軽ダム見学風景（平成 27 年 8 月 8 日撮影）



説明風景（平成 27 年 8 月 8 日撮影）

- おべ様 津軽ダムの次には鶴田町にある野木定盤(じょうばん)という施設を見学しに行ったんだよ。
- つが君 定盤？聞いたことがない施設だね。こういった役割をしているのかな？
- おべ様 野木定盤とは、いっぱいある田んぼにきちんと水が行きわたるように、岩木川の統合頭首工(岩木川から用水路に水を注ぐ施設)から土淵堰(どえんぜき)幹線用水路を通ってきた水を正しく決められた割合に分ける施設なんだよ。1767年に造られその後、何度も立て直しや改修工事が行われて今のような施設になったんだよ。東側へ分かれた水は、岩木川に沿ってつがる市の旧柏村、木造町を流れ稲垣村方面へ、西側に分かれた水は、つがる市の旧森田村、木造町南西側一帯へそれぞれ流れて行って、身近な水路を通して田んぼで使われるんだよ。
- つが君 約250年も昔からある施設なんだね。
- おべ様 そうだね。昔は今に比べてきちんと水路が整備されていなかったもので、渇水時は水争いのもとになるから、きちんと正確に水を分配する必要があったんだ。
- つが君 重要な施設なんだね。
- おべ様 そうだね。今回の見学会の参加者は白神山地→津軽ダム→岩木川→土淵堰幹線用水路→野木定盤→田んぼという風に身近な田んぼの「水」がいろいろな施設を通して流れているのがわかったと思うよ。みんなが食べる安全で安心な作物を育てるために必要な「水」もきれいでないといけなから、ダムや川、用水路などに空き缶やゴミなどは絶対に捨てないでね。
- つが君 よーくわかったよ。



野木定盤施設(平成27年8月8日撮影)



集合写真(平成27年8月8日撮影)

